

【91】ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設 高機能化事業(拡充)

平成20年度概算要求額:769百万円

(平成19年度予算額:300百万円)

事業開始年度:平成19年度

事業達成年度:平成21年度

主管課

スポーツ・青少年局競技スポーツ課 (課長:小見 夏生)

関係課

事業の概要

ナショナルトレーニングセンター(NTC)は、我が国のトップレベル競技者等の強化・育成活動の充実を図るための施設であり、中核拠点と競技別強化拠点により構成することとしている。本事業は、冬季競技、海洋・水辺系競技、屋外系競技及び高地トレーニングの、中核拠点では対応できない競技等について、既存のトレーニング施設をNTC競技別強化拠点として指定し、NTC中核拠点とのネットワーク化などの施設の高機能化に係る事業を実施することにより、トップレベル競技者がより質の高い育成・強化活動を行うことが可能な環境の整備を図るものである。

必要性

施策目標7-2(「平成22年までにオリンピック競技大会におけるメダル獲得率3.5%を実現する」)を達成するためには、トップレベル競技者の競技水準の向上を図ることが必要であり、中核拠点では対応できない冬季競技等について、トップレベル競技者が同一の活動拠点で集中的・継続的にトレーニングを行う環境の整備を行う必要がある。スポーツ振興基本計画においても、「到達目標」として「ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点の指定を2006(平成18年)度中に開始し、2007年(平成19年)度から支援を開始する」と記載されているところ。

効率性

インプット

NTC競技別強化拠点の指定・高機能化

アウトプット

NTC競技別強化拠点指定施設のトレーニング機能等の向上や中核拠点(JISS)等とのネットワーク構築を行い、より質の高い育成・強化活動が可能となる。

アウトカム

我が国のトレーニング拠点となるナショナルトレーニングセンターが整備され、我が国の国際競技力が向上する。

有効性

施策目標【7-2】我が国の国際競技力の向上

得ようとする効果及びその達成見込み

NTC競技別強化拠点の指定及び本事業の実施により、冬季競技等の強化活動をより効果的・継続的に行う環境の整備が図られることとなり、NTC競技別強化拠点指定施設における強化活動の実績が、国内の他のトレーニング施設と比較して大幅に増加する見込みであることから、本事業の得ようとする効果は十分達成できると判断。

NTC中核拠点施設では対応できない競技等について、NTC競技別強化拠点に指定し支援を行うことについては、「ナショナルトレーニングセンターの設置等の在り方に関する調査研究協力者会議」における検討結果による。

広報計画

特になし

備考

事業達成年度は、中間評価年度

我が国のナショナルトレーニングセンター(イメージ図)

NTC競技別強化拠点

既存のトレーニング施設を競技別のNTCとして指定し、強化拠点として機能させるための施設の高機能化による充実を図る。(H19.5.18指定時点)

冬季競技

- ・スキー(ジャンプ): 札幌市「大倉山ジャンプ競技場」
- ・スケート(スピードスケート・ショートトラック): 長野市「エムウェーブ」
- ・スケート(フィギュアスケート): 中京大学アイスアリーナ
- ・ボブスレー・リュージュ: 長野市「スパイラル」
- ・カーリング: 軽井沢町「スカップ軽井沢」
- ・アイスホッケー
- ・バイアスロン



海洋・水辺系競技

- ・セーリング
- ・ボート
- ・カヌー



高地トレーニング



屋外系競技

- ・サッカー
- ・ソフトボール
- ・ホッケー
- ・野球
- ・自転車
- ・馬術
- ・アーチェリー
- ・クレー射撃
- ・ライフル射撃



ネットワーク

NTC中核拠点(西が丘地区)

屋内・屋外トレーニング施設、宿泊施設等を整備



屋内トレーニング施設

- ・バレーボール
- ・ハンドボール
- ・バスケットボール
- ・レスリング・バドミントン
- ・柔道・体操・卓球
- ・ウエイトリフティング
- ・ボクシング 等



屋外トレーニング施設

- ・400mトラック
- ・テニスコート 等



宿泊施設

- ・宿泊室
- ・食堂 等



国立スポーツ科学センター(JISS)

- ・スポーツ科学・医学・情報の拠点

